長年地元で声楽演奏と合唱指導に当たっている髙坂さん

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔 3―❷

声楽・合唱指導

髙坂 良修さん(53)

（釧路市）

長年地元で声楽、合唱指導

小3の時に出合い

長年にわたり合唱団の指揮や指導をはじめ、声楽家（テノール）として演奏活動を続けている。国立音大声楽学科を卒業し、留辺蘂高校を経て1995年に釧路商業高校、今年4月に母校の釧路湖陵高校に音楽科教諭として着任した。

小学3年の時、学芸会の合唱団で歌うのが嫌だったが指揮者に選ばれ、体で音楽を表現する指揮に「気持ちよかった」と振り返る。高校の入学式で合唱部の歌を聴いて感動し、歌ってみたいという気になり、その日のうちに合唱部に入部。1年生後期から指揮するようになった。

音大では当初、教育音楽科に入学。2年間学んだ後、一人でも歌える技術を身に付けたいと声楽学科に転科した。教育音楽科では「指導者になるための勉強をさせてもらった」。現在、釧路子どもミュージカル・キッズロケット音楽監督、釧路男声合唱団指揮者、釧路合唱連盟副理事長などを務めている。

気持ちに触れ合い

「合唱は職業や世代、社会的地位などに関係なく互いの気持ちに触れ合えるのが好き。合唱を通して人とのコミュニケーションが取れる子どもたちを育てたい」と言う。

文武両道をポリシーに、湖陵高校では合唱部とともに空手部の顧問も務めている。白糠町生まれ。

18センチ）を製作した。車の後ろに吸盤で付けるタイプで後続車などに知らせる。交通対策副委員長の天方智順さんは「周りのサポートや旅行者自身も気を付けるき

これらに対応して外国人との窓口になる同レンタカー協会は、釧路空港前の5店舗で具体的な啓発につなげる。特に台湾人のレンタカー利用は釧路―台北の定

「学校の記憶」コーナ
では、建て替えなどで、

1972年の北大通を写真
再現―など展示の準備を進
る会員